

核なき世界の実現を

広島 専門家らがシンポジウムが2日、広島市中区の広島大学東千田キャンパスであった。広島大学平和センターの川野徳幸センター長(原爆・被ばく研究)

「核なき世界」の実現に向けた取り組みを話し合う国際シンポジウムが2日、広島市中区の広島大学東千田キャンパスであった。広島大学平和センターの川野徳幸センター長(原爆・被ばく研究)

志布志市有明出身の川野は、国内外6人の専門家が、核兵器禁止条約を取り巻く世界情勢や、核開発の被害実態などについて議論した。テーマは「ヒロシマの平和、そして世界の平和」。公開討論会では、国連で昨年採択された、いかなる核兵器の使用も国際法に反するとして核兵器禁止条約について言及。日本政府が署名、批准し



「核なき世界の実現に、広島が果たす役割は大きい」と語る川野徳幸センター長。2日、広島市中区の広島大学東千田キャンパス

ていない点に「核保有国をいかに関与させられるかが課題」「核兵器は使用だけでなく、製造過程から被害をもたらすという事実を知ってほしい」などの意見が交わされた。

川野センター長は「原爆は現在進行形の問題であり、広島から発信し続ける意義は大きい。積み重ねてきた知見を生かし、貧困や飢餓といった新しい課

題にも取り組みながら、普遍的な平和の実現にも貢献したい」と話した。(中咲貴稔)